

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境2016年版, CASBEE 建築環境2016年版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊谷総合病院再整備計画 (PET検査)	階数	地上3F
建設地	埼玉県熊谷市中西4-5-1	構造	RC造
用途地域	住居(第1種)、法22条地域	平均居住人員	298 人
地域区分		年間使用時間	3,600 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	
竣工年	2018年5月 0.0	評価の実施日	2017年4月20日
敷地面積	17,593 m ²	作成者	日揮(株) 箱田 利明
建築面積	2,203 m ²	確認日	2017年4月20日
延床面積	4,524 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

138 tCO₂/年・184 (kgCO₂/年・㎡)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	北側に低層階, 中央に高層階を配置し, 周囲道路側に開放感と, ストリートビューを確保。	
その他		
Q1 室内環境	F☆☆☆☆を全面的に採用。 開口部遮音対策として遮音等級T-2を使用している	Q2 サービス性能 非常用発電機を備えている。
Q3 室外環境(敷地内)		
LR1 エネルギー	COPが高い空調機器を採用。	LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用。
LR3 敷地外環境	光害対策ガイドラインを満たす。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE埼玉県 重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	熊谷総合病院再整備計画 (PET検診棟)	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.0	+	2.6	=	5.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
・駐車場部分に浸透性アスファルトを使用			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
・屋上緑化を保全し、増築建物周囲に景観を配慮し植栽を配置した。			

 : 入力欄

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
熊谷総合病院再整備計画 (PET検診棟)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄				全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.40		-	3.2
1 音環境		3.3	0.15	3.0	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		3.8	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能	遮音等級はT-2を使用している	5.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		3.3	0.35	3.0	1.00	3.3
2.1 室温制御		3.7	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性	階別・用途別の細かなゾーニングとしている。	5.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.8	0.25	3.0	1.00	2.8
3.1 昼光利用		2.4	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率		2.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	1.00	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.4	0.25	3.0	1.00	3.4
4.1 発生源対策		3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質	建築基準法規定対象の使用材料はすべてF☆☆☆☆を使用している	3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	中央管理方式による空調機による外気取り入れとしている。	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-		-	
2 喫煙の制御	敷地内禁煙としている。	5.0	1.00		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		3.0	0.40	2.6	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性			-	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	患者さんが使用するエリアはレベルなしで計画	3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観			-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画	清潔感・リラックス感が得られる色彩計画をしている。	3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	私設管理課があり、定期的なメンテナンスを行っている。	3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	汚れ防止機能性材料を選定し20年	4.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・給湯管にVLP、排水管にVPを使用している。	4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		3.6	0.20		-	
1 空調・換気設備	耐用性・信頼性の高い汎用機器を採用している。	4.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	同上	4.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスSクラスとしている。	5.0	0.20		-	
5 通信・情報設備	通信手段の多様化を図っている。	2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	3.0	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	3.0	0.50	
1	階高のゆとり	階高を4.0mとしている。	4.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	各診察室が広がっている	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40		-	4.0
接道緑化をできるだけ長くした。また既存建物に色彩・形状を合わせ							
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20		-	5.0
省エネルギー計画の届出算定結果 BPI _m =0.79							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.1	0.50		-	2.1
[BEI][BEI _m] = 0.97							
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			3.0	-		-	
4.1	モニタリング		3.0	-		-	
4.2	運用管理体制		3.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40		-	
節水型衛生器具を採用。							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60		-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
-							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
-							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.20		-	
躯体と仕上げ材が容易に分離可能にした。							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
2.1 大気汚染防止			4.0	0.25		-	
Nox排出濃度50ppm機器使用							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	